

今に残る大名庭園：
江戸の埋立地にできた潮入庭園で池泉を中心とした典型的な回遊式庭園



撮影：2015年1月（東京都・港区 旧芝離宮恩賜庭園）

◆江戸初期にできた大名庭園のひとつ

この地は江戸・明暦のころ（～1658年）に海面が埋め立てられました。延宝6年（1678）には老中・大久保忠朝の屋敷となり、小田原から庭師を呼んで作庭し、「楽壽園」と命名されました。数多い庭園の中でも地割りと石組は定評があります。明治4年（1871）に有栖川宮家の所有になりましたが、その後宮内庁が買い上げて明治9年（1876）に芝離宮となりました。

◆文化財保護法による国の「名勝」に

関東大震災ではほとんど焼失しましたが、大正13年（1924）昭和天皇のご成婚記念として、東京市の「旧芝離宮恩賜庭園」として公開されました。庭園内で一番の高さ7mの大山からの眺めは見事です。

岡村幸二（JRRN会員）